

2025 年 12 月

養成関係

カリキュラム

上級デジタルアーキビスト（2025 年 1 月 9 日改定）

○必要単位 20 単位<必修科目 12 単位+選択科目 8 単位>

必修科目 【12 単位】		
授 業 名	内 容	単位
デジタルアーカイブ論	知識基盤社会を支えるデジタルアーカイブの必要性、国内外の事例、省庁資料、法制度についての理解を深める。また、パブリックのみならず、パーソナルなアーカイブを遺す必要性や、オープン化、3D、AI 等の活用等の動向についての知見を深める。	2
デジタルアーカイブ経営論	デジタルアーカイブを組織的に開発・運営していくために必要なヒト・モノ・カネ・情報や他機関との連携、人材育成をマネジメントするための能力を養う。	2
知的財産等権利処理特講	デジタルアーカイブを作成する際に必要となる著作権、肖像権、個人情報、プライバシーなどの制度を理解し、慣習にも配慮するなど実践で対応できる能力を養う。	2
デジタルコンテンツ作成演習	デジタルアーカイブ構築に関する技術として、撮影やスキャニング等の多様な対象のデジタル化や、デジタルデータの加工などを含む実践能力を養う。	2
デジタルアーカイブ構築演習	これまでに修得した知識・技術を活かし、デジタルアーカイブの構築から公開までに必要な能力を養う。その際、IIIF などの国際的に用いられている方法の採用や、API 等を利用した他機関との連携、使いやすさ・ユニバーサルデザインにも留意する。	4

※各科目該当の変更(振替)の履修可

選択科目【8単位以上】（2分野以上から選択）			
分野	内 容	授業名(例)	単位(例)
対象	デジタルアーカイブの対象や文化の理解に関するもの。特定の分野における既存のデジタルアーカイブの活用も含む。	文化学特講	2
		社会言語学特講	2
		伝統文化特講	2
		地域文化特講	2
		カリキュラム開発特講 など	2
理論	デジタルアーカイブを取り囲む制度、運用のための組織体制、知識の体系化など理論的な内容を主とするもの。	メディア論	2
		文化資料研究	2
		MLA 資料研究	2
		オーラルヒストリー研究	2
		実践研究Ⅰ など	2
技術	デジタルアーカイブの構築や運用に関する情報技術を主に扱うもの。	実践研究Ⅱ	2
		教材開発特講	2
		教材開発研究	2
		教材情報特講 など	2
※その他大学院が申請した認定科目			

上級デジタルアーキビスト（旧カリキュラム）

当面は旧カリキュラムも可能ですが、順次新カリキュラムへ移行してください。

○必要単位 20 単位<必修科目 12 単位+選択科目 8 単位>

必修科目 【12 単位】	
授 業 名	単位
文化メディア特講	4
デジタルアーカイブ特講	4
文化メディア演習	2
デジタルアーカイブ演習	2

※各科目該当の変更(振替)の履修可

選択科目 【8 単位以上】（2 分野以上から選択）		
分 野	授業名(例)	単位(例)
情報管理・流通関係	文化情報管理特講	4
	文化情報検索特講	2
	遠隔教育特講など	2
文化関係	文化学特講	2
	言語学特講	2
	伝統文化特講など	6
文化情報関係	教材開発特講	4
	教育情報特講	4
	教育メディア特講	2
	アーカイブ研究など	4
※その他大学院が申請した認定科目		

※情報管理・流通関係分野の科目を取得

デジタルアーキビスト（2025 年 12 月 1 日改定）

○必要単位 22 単位＜必修科目 12 単位＋選択分野 10 単位＞

必修科目 【12 単位】				
領域	科 目	内 容	キーワード	単位
概論	デジタルアーカイブ概論	デジタルアーカイブの意義や歴史、デジタルアーキビストの役割について基礎的な知識を養う。また、多様な事例を通じて、デジタルアーカイブを包括的に理解する。	デジタルアーカイブとは、デジタルアーキビストとは、知の循環、知識基盤、偽・誤情報の流通、多様なデジタルアーカイブ	2
対象	デジタルアーカイブ文化・メディア論	デジタルアーカイブの対象となる文化や情報資産等の価値を尊重するとともに、デジタルアーカイブの計画を策定するにあたりその対象や性質を明確に把握しておくことが重要であることを理解する。また、各メディアの特性や取扱い方法についての知識を習得する。	対象の理解、対象の選定、デジタルアーカイブの対象の形態分類、利用者の求めるメディア	2
保存・管理	デジタルアーカイブ権利処理	契約書や承諾書を作成し、適切な著作権表記を付けるなど、著作権、肖像権、個人情報・プライバシーの保護、慣習などに留意した対応を行うための基礎的な能力を養う。演習を交えて理解を深めることが望ましい。	契約書・承諾書作成、クリエイティブ・コモンズ・ライセンス、パブリックドメイン・ツール、授業目的公衆送信補償金制度、図書館等公衆送信補償金制度	2
	デジタル化技術基礎	計画的に資料のデジタル化を行い、適切なメタデータを付与して体系的に管理するために必要となる基礎的な知識・技術を習得する。演習を積極的に取り入れることを推奨する。	撮影計画、デジタル化、3D、ドローン、メタデータ付与、データベース設計、マイグレーション、エミュレーション、DOI・永続的識別子、AIの活用	2
	デジタルアーカイブの公開・利活用	公開に適した形にデータを加工し、多様な人々や広範な分野で利活用されるために必要となる使いやすさやデータ連携に関する知識・技術を習得する。演習を積極的に取り入れることを推奨する。	ユニバーサルデザイン、アクセシビリティ、障害者差別解消法、API 連携、オープンデータ、LOD、UI/UX、IIIF、XR（クロスリアリティ）、AI の活用	2
運用	デジタルアーカイブ政策・経営論	国内外におけるデジタルアーカイブの政策や制度、課題について把握した上で、デジタルアーカイブを中長期的に運用していくために必要な経営の知識を習得する。また、継続的な改善と運用の観点からデジタルアーカイブを評価する資質を養う。演習を交えて理解を深めることが望ましい。	内外の政策的課題、ヒト・モノ・カネ等経営資源、利活用の促進、オープンデータ化、人材育成、ジェンダー問題、リスクコントロール	2

選択分野 【10単位】	
分 野	資格の例 (資格取得は必須ではない)
デジタルアーカイブと教育	教員免許状
デジタルアーカイブと博物館	学芸員
デジタルアーカイブと図書館	図書館司書
デジタルアーカイブと自治体・産業	建築士
デジタルアーカイブ専門職技能	情報処理技術者試験 (※) 情報処理安全確保支援士試験 (※) 無人航空機操縦者技能証明 (※)
内 容	
<p>認定養成機関が設定するデジタルアーカイブ関係科目 10 単位以上を修得する。</p> <p>なお、特定の資格の取得または、資格取得に要する所定単位の修得をもってこれに替えることができる。ただし、代替資格の課程には必ずデジタルアーカイブに関する内容を含むこととする。</p> <p>また、[教育][博物館][図書館]などのように資格活動の分野を付加することができる。[] の内容については、養成機関と相談の上設定できるものとする。</p> <p>(※) 情報処理技術者試験、情報処理安全確保支援士試験、無人航空機操縦者技能証明のように単位修得を要さない試験・資格は単位認定等により単位数を明示し、関連する科目や資格等と合算して 10 単位以上を修得する。</p>	

※社会人が講習を受講する場合には、講習時間を除いた残りの単位相当分について、本人署名による実務経験申告書、実務経験証明書、単位履修証明書の提出、またはそれに代わる適切な方法により、申込時点で要件を満たしているかどうかを確認していただくものとする。

デジタルアーキビストカリキュラム（2025 年 12 月 1 日改定）に関する Q&A

Q1．選択単位を 20 単位以上に設定したいのですが問題ないでしょうか。

A1．選択分野の必要単位数は最低 10 単位に緩和しましたが、大学としては 20 単位以上に設定いただくことも可能です。各大学の特色に応じて柔軟に設計いただけます。

Q2．選択分野の代替として特定の資格の取得または、資格取得に要する所定単位の修得が認められていますが、代替できる資格は必ず設定しなくてはなりませんか。

A2．代替資格の設定は任意であり、各大学の方針に応じてご判断いただけます。

Q3．代替資格の所定単位が修得できなかった場合はデジタルアーキビストも取得できないのでしょうか。

A3．認定試験に合格していても、必要な単位が不足したまま卒業した場合は、デジタルアーキビストの認定は一時的に保留されます。卒業後に不足分の科目を履修いただくことで資格が認定されます。

Q4．教員免許状、学芸員、図書館司書など複数の資格を取得した学生は、資格活動の分野は〔教育〕〔博物館〕〔図書館〕のように複数記載されるのでしょうか。

A4．本人の希望があれば、複数の分野を記載することが可能です。なお、本人の意向により、特定の一分野のみを記載することや、分野の記載自体を行わないことも選択できます。

デジタルアーキビスト（旧カリキュラム）

当面は旧カリキュラムも可能ですが、順次新カリキュラムへ移行してください。

○必要単位 32 単位＜必修科目 12 単位＋選択分野 20 単位＞

○選択分野については、選択した分野の資格取得（教員免許、博物館学員、図書館司書、観光関連資格）もしくは、専門単位の取得を条件とする。
（各機関で設定）

必修科目 【12 単位】			
領 域	科 目	内 容	単 位
概 論	デジタルアーカイブ概論	デジタルアーカイブとは、対象、保存・管理・活用、法と倫理、多様なデジタルアーカイブ	2
対 象	デジタルアーカイブ文化・メディア論	アーカイブによる知の循環型社会、文化の理解、対象メディア、利用者の求めるメディア	2
保存・管理	デジタルアーカイブ対象選定・権利処理	法・倫理、契約書・承諾書作成、クリエイティブ・コモンズ・ライセンス等	2
	デジタル保存・管理技術	デジタル化、メタデータ付与、長期保存・マイグレーション、リンクドデータ、IIIF、DOI	2
運 用	デジタルアーカイブ経営論	企画・開発、運用、活用、人材育成、ユニバーサルデザイン、多様な開発事例研究	2
	デジタルアーカイブ政策論	内外の政策的課題、オープンデータ化、分野横断型統合ポータルへの接続、検索技能向上	2

選択分野 【20 単位】	
分 野	
デジタルアーカイブと教育	各大学・認定機関においてデジタルアーカイブを活用する関係科目・資格を認定
デジタルアーカイブと博物館	
デジタルアーカイブと図書館	
デジタルアーカイブと産業	
デジタルアーカイブと自治体	
デジタルアーカイブ専門職技能	

◆ 準デジタルアーキビスト（2021 年 5 月 28 日改定）

科 目	内 容
デジタルアーカイブとは	分野横断型統合ポータル等多様なデジタルアーカイブを基盤にした知識循環型社会、デジタルアーキビストの活動、デジタルアーカイブ開発のプロセス
対象の理解	文化・科学・産業・地域に広がる対象、対象の理解に基づく利用者の求める多様なメディアのデジタル化
資料選定・権利処理	ニーズ把握、権利処理による法・倫理（知的財産権、肖像権、プライバシー保護、慣習等）への対応、ライセンス表示、授業目的公衆送信補償金制度の利用
資料の記録	多様なメディアに対応したデジタル化（撮影・スキャニング・録音・OCR 等）の基礎知識、メタデータ付与
資料の保存・管理	データベース、データの登録、データの検索、長期保存・マイグレーション、リンクドデータ、IIIF、DOI

デジタルアーカイブクリエイター

デジタルアーカイブとは

デジタルアーカイブ作成のプロセス

資料の記録（撮影の基礎知識、インタビュー技法等）

資料の登録・保存・管理・流通

ガイドラインの事例（知的財産権、肖像権に関する基本的な知識等）

試験（認定）料・養成機関認定料等の定め

1. 試験料・認定料

区 分	試験（または認定）料金
上級デジタルアーキビスト	（認定料）2万円
デジタルアーキビスト	1万円
準デジタルアーキビスト	6千円
デジタルアーカイブクリエータ	（認定料）5千円

※社会人の方で上級デジタルアーキビスト審査認定を受験される場合は、別途審査料として3万円が発生します。

2. 養成機関認定料及び更新料

区 分	認 定 料	更 新 料
すべての種類のデジタルアーキビストを養成する場合	50万円	20万円
上級を除くデジタルアーキビストを養成する場合	20万円	10万円
上記以外の場合	10万円	3万円

講習会開催について

デジタルアーキビスト

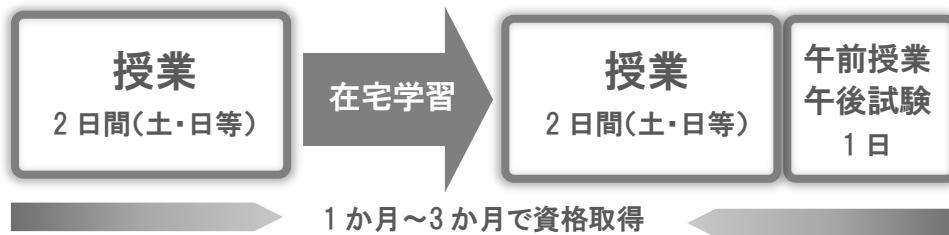
受講対象

- ① 準デジタルアーキビスト資格取得者で、大学を卒業し、3年以上の社会経験を有する者
- ② 準デジタルアーキビスト資格取得者で、短大または専門学校を卒業し、5年以上の社会経験を有する者
- ③ その他認定養成機関が認めた者 ※審査有り

受講期間

5日間の講習（授業 4.5 日+試験半日）および在宅学習

（例）



受講料

50,000 円～100,000 円（認定養成機関で設定）

受験料

10,000 円

認定試験

授業の最後に実施

試験時間 90 分

70 点以上合格

2011 年 4 月施行

準デジタルアーキビスト

標準カリキュラム

デジタルアーカイブとは
対象の理解
資料選定・権利処理
資料の記録
資料の保存・管理

受講対象

高校生以上

社会人

実施時間

2 日間（社会人の場合は 1 日も可）

受講料

認定養成機関で設定

受験料

6,000 円

認定試験

授業の最後に実施

試験時間 60 分

70 点以上合格

デジタルアーカイブクリエイター

標準カリキュラム

デジタルアーカイブとは
デジタルアーカイブ作成のプロセス
資料の記録（撮影の基礎知識、インタビュー技法等）
資料の登録 ・ 保存 ・ 管理 ・ 流通
ガイドラインの事例（知的財産権、肖像権に関する基本的な知識等）

※ガイドラインの事例…当面は、災害記録を例として提示し、従来同様著作権、情報倫理等の講義を行う。具体的なガイドラインを順次整備する。

※インタビュー技法等…当面は、オーラルヒストリーのインタビュー取材等を事例として留意点を提示する。

受講対象

高校生以上
社会人

実施時間

2日間（社会人の場合は1日も可）

受講料

認定養成機関で設定

認定料

5,000円

認定試験

なし

資格試験・認定 <委託業務> —申請・報告手順—

試験や講習会を実施いただく場合は申請と報告が必要です。

下記を参考の上、書類の提出等をお願いいたします。

書類提出先

特定非営利活動法人日本デジタルアーキビスト資格認定機構 事務局

E-mail jdaa.jimu@gmail.com

住 所 〒500-8813 岐阜県岐阜市明德町 10 番地杉山ビル 4F

岐阜女子大学文化情報研究センター内

TEL : 058-267-5301 / FAX : 058-267-5238

1 申 請

◇ 提出書類

	様式	上級	DA	準	DAC
申請書	様式 1	○	○	○	○

※DAC はデジタルアーカイブクリエータ

※提出はデータ、紙いずれでも可

◇ 提出期限

試験実施日より 1 か月前まで

※講習会を開催し試験を実施する場合は 3 か月前まで

※講習会の実施申請をいただきましたら当機構ウェブサイトやメールマガジンでも広報させていただきます。

2 報 告

◇ 提出書類

	様式	上級	DA	準	DAC
報告書	様式 2	○	○	○	○
受験者（認定者）リスト	様式 3	○	○	○	○
試験申込書・認定申請書(全員分)	様式 4	○	○	○	○
試験問題<1 部>			○	○	
単位取得証明書	様式 5	○	△		
学位論文記入書	様式 6	○			

※DAC はデジタルアーカイブクリエータ

※提出はデータ、紙いづれでも可

※△は、学内の学生対象の場合は要提出、社会人対象の場合は不要。

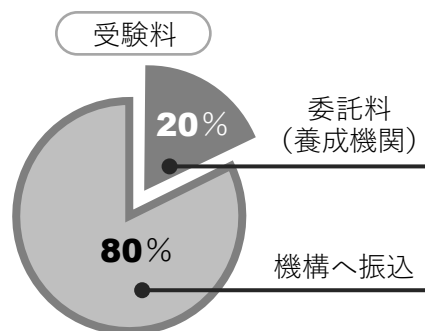
◇ 提出期限

試験日より 2 週間以内

◇ 受験料

受験料の 20% が委託料です。

委託料（20%）を差し引いた金額を
下記口座にお振込ください。



<振込先>

三菱 UFJ 銀行 四谷支店 普通預金 口座番号 1 2 8 1 2 6 0
特定非営利活動法人日本デジタルアーキビスト資格認定機構

※受験料の請求書が必要な場合は、あらかじめご連絡ください。

※委託料を差し引かず全額振り込む場合は、当機構より委託料を振り込みます。試験実施についての委託料の請求書（様式指定なし）をお送りください。

3 認 定

当機構より認定証または不合格通知の発送を行います。

認定証の発送は報告書類を頂いてから 10 営業日前後かかります。

テキストについて

テキスト

書名：デジタルアーカイブの理論と実践 ―デジタルアーキビスト入門―

編集：特定非営利活動法人日本デジタルアーキビスト資格認定機構

編集責任：井上透、大井将生、細川季穂

出版社：樹村房

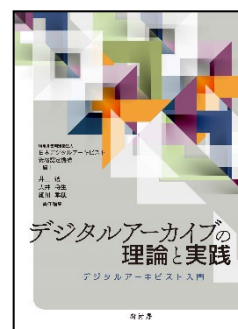
発行日：2023 年 4 月 1 日

ISBN：978-4-88367-379-7

判型：B5（108 ページ）

定価：本体 1,430 円（本体 1,300 円＋税 10%）

URL：https://jusunbo.co.jp/books/287_index_detail.php



購入方法：書店への注文または、オンラインから購入できます。

（日本デジタルアーキビスト資格認定機構ではお取り扱いしていません）